

郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 磯岡

磯岡は上三川町の北端部に位置し、宇都宮市とその境を接しています。集落の中には武（無）名瀬川や磯川が流れており、水源のひとつである龍の口からはコンコンと清水が湧き出していました。地名の由来は定かではありませんが、名付けられた当初は磯を思わせる岡のような景観だったのかも

れません。「岡」というわけではありませんが、当地にはいくつか古墳の存在が確認されており、磯岡遺跡からは古墳時代の竪穴住居跡も見つかっています。また、隣接する宇都宮市東谷町には大きき約100mもの前方後円墳が造られており、古墳時代には多くの人々がこの

地域一帯に生活していたことでしょう。

近年、大規模開発に伴う発掘調査によって、この地に東山道と推定される道が通っていたことが確認されました。東山道とは、律令制時代の日本の主要官道のうちのひとつで、畿内から下野国を通って陸奥国へと繋がる古代の幹線道路です。古代の磯岡には多くの人々が行き交っていたことでしょう。

年までは本郷村の一部で、それ以前の江戸時代には磯新田村と呼ばれていました。磯新田村は宇都宮藩領に属しており、僅かに天領も存在しました。「新田」という言葉からも推測できるとおり、新しく田畑が作られて開墾された村でした。

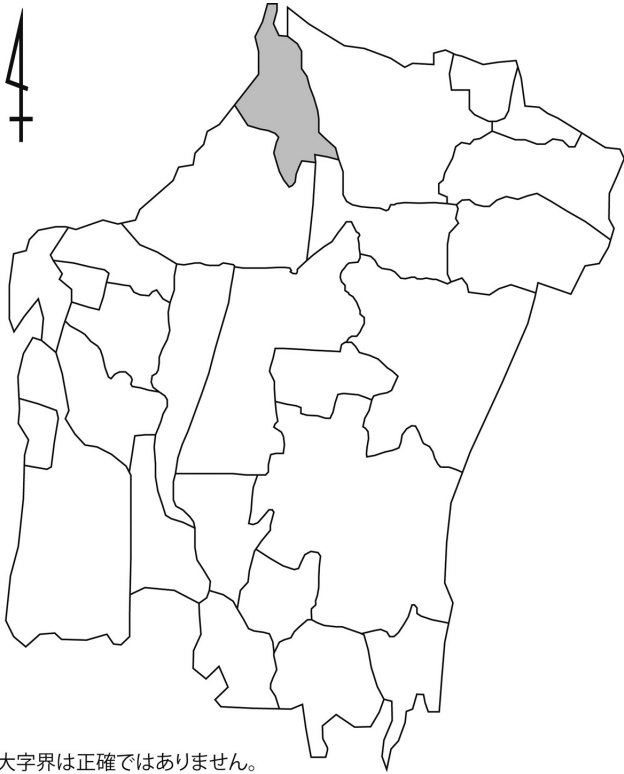
現在、磯岡の地は北関東自動車道と国道新4号線が交わる交通の要所となっています。古代から変わらず人々が行き交う地として上三川の繁栄を支えています。

さて、ここ磯岡は昭和三十

地区内には、高麗神社と琴平神社の二社が鎮座しています。いずれも創建の時期は不明ですが、集落の鎮守として崇められています。琴平神社は、イ

ンターパーク開発の折に現在の場所に移設されました。

高麗神社



※大字界は正確ではありません。



高麗神社



琴平神社